

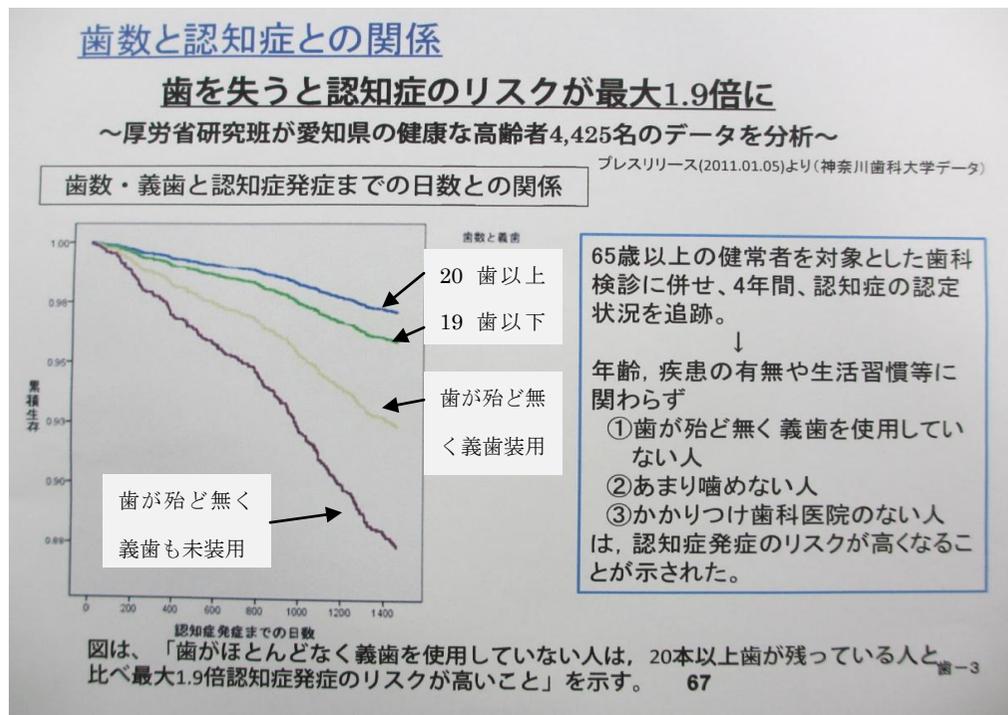
## ✦ ご挨拶

寒中お見舞い申し上げます。松の内の賑わいも過ぎ、寒さも厳しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか？時節柄ご自愛専一に、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## ✦ 衝撃の数値

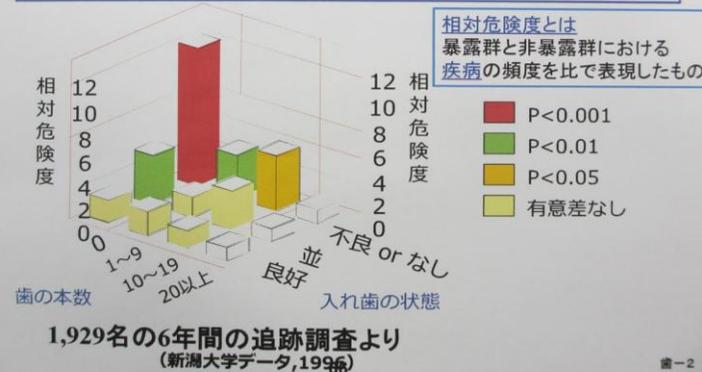
65歳以上の5人に1人が認知症に！驚きの数字が発表されたのは今月7日、厚生労働省が「国家戦略案」で示した推計によるもの。10年後の2025年には約700万人の方が認知症になるとのこと。現在でも徘徊による行方不明者が、年間約1万人、詐欺被害者も急増していることから、その対策が急務です。

『いかに症状を悪化させず、生活の質を保つにはどうすれば良いか？』・・・その課題に答を出すヒントが、以下の資料に隠されています。



## 義歯の状況も含めての生存期間との関係

歯が少なく、入れ歯の状態も悪い高齢者では、身体的健康状態が悪化することが示唆される。  
\*身体的健康悪化とは介助必要や寝たきりとなること。(調査対象55歳以上)



これらの資料から、歯が少なく「入れ歯」の状態が悪い高齢者の方は、認知症の発症率が高く、介護度や医療費も高くなる傾向が顕著になることが分かってきました。しかし、歯の本数が少なくても「入れ歯」の状態が良好な方は、身体的な健康条件が悪化しにくい(介助を必要とせず、寝たきりにならない)ことを示しています。

厚生労働省研究班調査によると、2013年度の認知症患者は462万人に上ることが発表されています。言い換えれば、認知症患者激増の影には、歯科治療との関係性も否定できないと、検証結果からうかがえるのです。

実際の介護現場では「入れ歯を装着して食事をする人は、ほとんどいない」という現実もあり、真に身体に適合し、咀嚼機能を改善するような歯科治療を受けている人が少ないのではないかと考えます。

『あなたは、この現実にご対処しますか？』・・・答はご自身の中に、きっとあるはずです。

(このニュースレターに関する皆様からのご意見・ご感想などをお寄せいただければ幸いです。)